

平成20年度大阪支部療育研修会

1) 研修会のタイトル

「神経・筋疾患における呼吸リハビリテーションについて」

2) 支部名 大阪支部

3) 報告者名 大阪支部長 中岡稔侍

4) 実施場所 独立行政法人 国立病院機構 刀根山病院

5) 実施日時 平成20年7月19日(土) 9:30~12:30

6) 研修会の内容

I 講義(3階会議室)

①「神経・筋疾患における呼吸リハビリテーションの必要性」

刀根山病院 神経内科医長 松村 剛

②「神経・筋疾患の呼吸理学療法の実践」

刀根山病院 理学療法士 川嶋 猛

II 実技演習(1階リハビリ棟)

講師

刀根山病院 神経内科医長 松村 剛

刀根山病院 理学療法士 川嶋 猛

刀根山病院 看護師 高木 加奈子

刀根山病院 看護師 由良 英奈

7) 感想

この研修会は、「独立行政法人国立病院機構 刀根山病院」の全面的なご協力を得て開催したものです。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

松村医長・河嶋理学療法士両先生の「基本的な呼吸リハビリテーションの必要性」の講義を受けた後約2時間の次の実技演習を行いました。

1 最大強制換気量(MIC)を得る練習

① 救急蘇生バックを用いた深呼吸練習

② 舌咽頭呼吸法の練習

2 排痰の練習

① 咳の練習

② 徒手胸郭圧迫法の練習

③ 吸気介助による咳嗽練習

④ カフマシーンを用いた練習

実技演習では参加者が交代で患者・介護者になり全員が熱心に練習をしていた。蘇生バックでの深呼吸練習では、吸気のタイミング及び送気量の加減が難しかったが何回か練習するうちにうまくいくようになった。

舌咽頭呼吸法(カエル呼吸)の上手にできる人はNIVが24時間必要な患者で大地震の際の停電が復旧するまで4、5時間この呼吸で乗り切った方もいたそうですが実際に呼吸をしてみると非常に難しく思いどおりにできなかった。

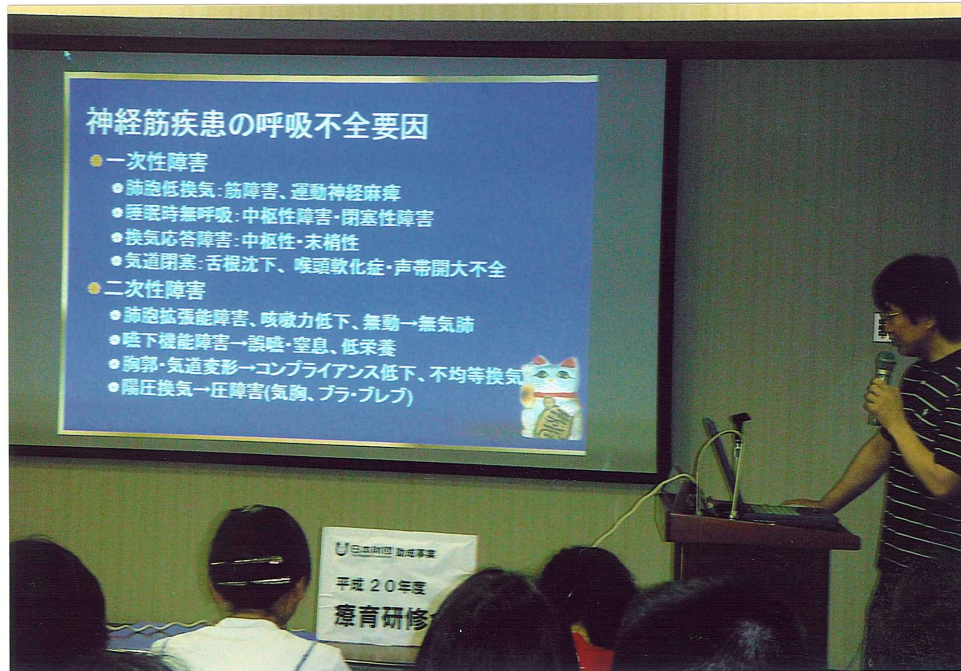
排痰の練習では、咳の合わずタイミング、手の位置、力の入れる方向と加減が難しかったが何回か練習するうちに理解できた。

カフマシーンを用いた練習では、タイミングが合わず苦しかった。

今回の療育研修会では、講義で基本的なことの説明を受けた後、実技演習の時間を長く取っていただきよく理解できた。

実際に体験した結果を今後患者の介護に役立てたいと思っております。

平成20年度
大阪支部療育研修会



↑ 松村剛神経内科医長の講義



↑ 理学療法士による実技演習



↑ 理学療法士による演技演習



↑ 看護師によるカフマシーンの演技演習